

## 3月 ふかよみめんこちゃん



深堀保育園 R4. 2. 25発行

### ★うさぎ組 「みんなと一緒に楽しいね」



これかな。  
やった！



とれたよ！



SLマンだ！



“むっくりくまさん”や“おにごっこ”などを簡単なルールのある遊びを楽しんでいた子どもたち！今は“いすとりゲーム”や絵合わせカードにも挑戦しています。始めはやり方を覚えるところからスタートしたので、“自分の好きな絵カード”を持ってきたりしていましたが、回数を重ねていくにつれ、絵合わせが上手になる子どもが増えていきました。そんな遊びの中で、「やった～とれた」と喜んだり、「もう一回やりたい」と期待をもったり、「とれなかった」「私もとりたい」と悔し涙を流したりする場面も…。繰り返し簡単なルールのある遊びを楽しむ中で、「友達と遊んで楽しいね」と少しずつ思いが広がっていきけるように、一人一人の子どもの気持ちに寄り添っています。また、保育者が「がんばれ～」と応援することで、その姿を真似て応援したり、「そこにあるよ」と声を掛けたり、「〇〇ちゃん、やったね」とその子の「とれた」「うれしい」に共感する嬉しい姿も少しずつ見られるようになってきました。「自分が楽しい、嬉しい」という思いから、「みんなと一緒にだと楽しい、嬉しい」という思いへ広げていけるように、周りの子と関わる経験をたくさん重ねていきたいと思っています。

こんなことが育ってほしいなあ…

言葉のやりとれを通して身近な人に親しみ、一緒に活動する楽しさを感じられたらいいなあ。

### ★ぱんだ組 「溶けない雪」



わあ～い  
ゆきみたいだね



つめたーい



休み明け、戸外に出てもなかなか雪で遊ばずにいる子どもがおり、どうしたら雪遊びを楽しめるだろうか…日々考えていました。いろいろ調べる中で「溶けない雪」というものを発見しました。子ども達と一緒に「溶けない雪」を作り遊ぶことで、戸外での雪遊びを楽しむきっかけになればと思い、早速取り組むことにしました。

子ども達と一緒に分量を量り作る過程を見せたことで、遊びへの期待感が膨らんだようで、一人一人へカップに入れて渡すと「わあ～つめたい。本物の雪みたい」「なんだかいいにおいがする」などといって、手で触ったり、鼻に近づけたり、握ったり…。雪をカップに詰め、プリンのように型を取ったり、そのプリン容器の後ろの小さな穴から雪を入れる子や「水を入れたらどうなる？」と考える子、いつもは手が汚れることを嫌がる子もこの日は、溶けない雪の不思議さに心ひかれたのか感触遊びをじっくりと楽しみました。

化学反応で最後まで溶けない雪は冷たいままで、長い間「雪みたい」と溶けない雪遊びを楽しむことができました。“雪遊びを楽しむためには？”と取り入れたものが、他の子ども達の成長も感じとれるものとなり、保育をするにあたって環境設定は大切だと改めて思いました。

こんなことが育ってほしいなあ…

身近な事象を見たり、考えたり、扱ったりする中で、物の性質や数量に対する感覚が豊かになってくれればいいなあ。

